

オオハクチョウ

L140cm (6～12kg)



時期: 冬鳥

行動: 10月中旬ころ千島列島経由で瓢湖に渡来し3月中旬まで過ごす。

大半は朝10時ころまでに水田などの採餌場へ飛び、午後3時ころに帰ってくる。

特徴: 雌雄同色。クチバシの黄色はコハクチョウより大きく鼻孔の前方までのびている。

コハクチョウ

L120cm (5～10kg)

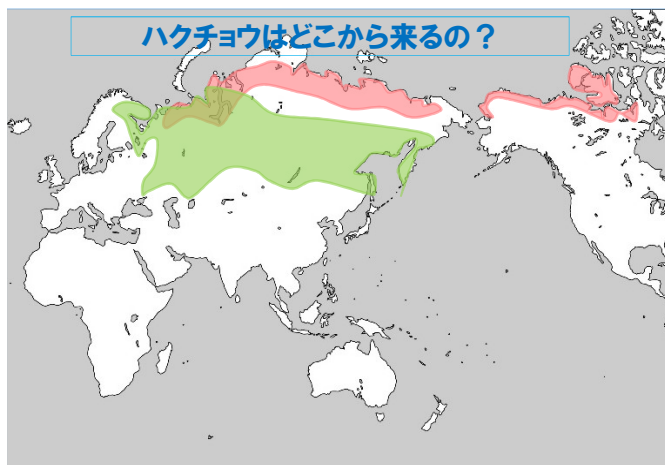


時期: 冬鳥

行動: 瓢湖には10月初めに渡ってくる。

行動はオオハクチョウと似ていて、水田などの採餌場で過ごし夕方に瓢湖へ帰るものが多い。幼鳥は全体的にくすんだ灰色。

特徴: 雌雄同色。クチバシの黄色はオオハクチョウより少なく、一回り小型。



ハクチョウはどこから来るの?

コハクチョウの繁殖地域

ユーラシア大陸の北極海沿岸
(ツンドラ地帯) に繁殖

9～10月にサハリン経由で南下

オオハクチョウの繁殖地域

ユーラシア大陸の北部 (タイガ地帯) で繁殖

9～10月に千島列島経由で南下

ハクチョウの生態

○家族はハッキリしていて、いつも一緒に行動しています。

○好んで食べるものはマコモなど。人口給餌ではシイナ (未成熟米)、麦、パンくずなどで、全国各地から送られてきます。

○降雪前は、餌を求め瓢湖から川辺や田んぼに出かけていく白鳥が多い。

○体重は10kg前後ありますので、滑走してから飛び立ちます。

○外見から雌・雄の区別が付きません。寿命(飼育の場合)は20～30年と言われています。

ホシハジロ

L45cm



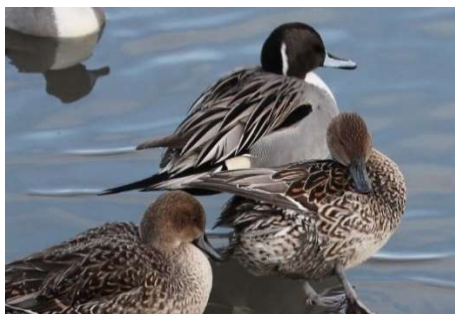
時期: 冬鳥

行動: 瓢湖でも多くみられる。繁殖地では水面に浮かぶ植物にヨシを積み上げ巣を作る。潜水して水中藻類や種子、甲殻類、軟体動物など食べる。

特徴: ♂虹彩は赤く、赤栗色の頭で胸が黒。♀薄いこげ茶の頭、目がこげ茶でふちが白い。

オナガガモ

L♂75, ♀53cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖では、ハクチョウに混じり多数群がっているのが観察される。

雑食性で、水面で採食したり、逆立ちで貝類などや水底の種子や水草を食べる。

特徴: 名の通りオスの尾羽が長い。♂こげ茶の頭で白い首。♀長めの首、灰色のクチバシ。

マガモ

L58cm



時期: 冬鳥、留鳥

行動: 瓢湖にとっても多く飛来するが、餌に集まる数は少ない。逆立ちで採食する姿もみられる。アヒル・アイガモはマガモを改良・交配したもので、識別の難しいものもある。

特徴: ♂緑の頭に白い首輪。クチバシが黄色。♀茶色の体に波形の模様。クチバシは橙色。

ヒシクイ

L85cm



時期: 冬鳥

行動: 国の天然記念物に指定され、福島潟には数千羽ほど、瓢湖にも数十羽が飛来する。警戒心が強く、夜は水場の中央に集まり休む。水草や根・種子などを食べる。

特徴: 雌雄同色。マガンより大きく暗い茶色。クチバシが黒く、先に橙色の斑が特徴。

ミコアイサ

L44cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖では少数が見られる。潜水して魚や甲殻類を採り、植物の葉、根、種子なども食べる。湖沼、河川や海岸などですむ。

愛称パンダガモ。

特徴: ♂頭から体は白。背中と目の周りが黒い。
♀頭は茶色、頬と喉が白色。

ハシビロガモ

L51cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖には数十羽が飛来する。種子、プランクトン、昆虫などを食べる。シャベルのようなクチバシを水面につけて水ごと吸い込み、濾し取って餌を食べる。

特徴: クチバシが長く広い。♂濃緑光沢の頭と茶色の腹。♀体はうすい茶色で波形の模様。

カンムリカイツブリ

L56cm



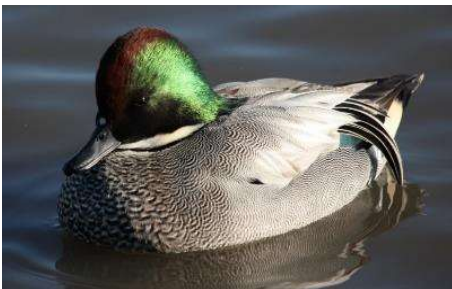
時期: 冬鳥

行動: 瓢湖では、水辺近くの浮巢で繁殖し、雌雄交代で育てる姿も見られるようになってきた。雛が親鳥の背に乗る姿も見られる。潜水して、魚類、昆虫などを食べる。

特徴: 雌雄同色。くびは長く頭部に黒い冠羽がある。クチバシはまっすぐで淡桃色。

ヨシガモ

L48cm



純絶滅危惧(NT)

時期: 冬鳥

行動: 瓢湖では珍しい。雄の頭はナポレオンの帽子に似ている。名前の由来はヨシの多いところにいるからという説もある。

主に種子、水生植物、海藻などを食べる。

特徴: ♂黒緑の大きな頭と白い首輪、三列風切が湾曲し長い。♀茶色の体に黒いクチバシ。

ヒドリガモ

L49cm



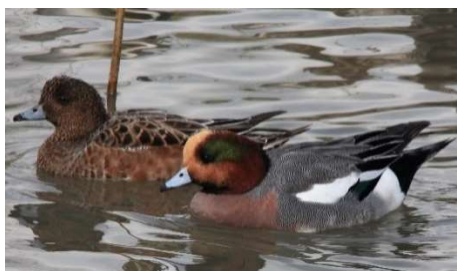
時期: 冬鳥

行動: 水面に浮かぶ植物の葉、根、種子等を採り、水生昆虫なども食べることがある。雄はピューイと澄んだ声で鳴き、雌はグワッ、グワッとかわいく鳴く。

特徴: とともにクチバシの先が黒い。♂額から頭頂にかけクリーム色。♀頭から体が茶色。

アメリカヒドリ

L48cm



時期: 冬鳥

行動: 雌雄ともに鳴き声はヒドリガモに似ている。瓢湖ではヒドリガモに混じって少数が飛来。水面に浮かぶ植物の葉、根、種子などを食べる。

特徴: ♂額から後頭部が白く目の後方に緑色の帯がある。♀ヒドリガモに似るが灰色っぽい。

コガモ

L38cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖では多い。カモ類では日本最小でハトくらいの大きさ。越冬地で、雄は雌に対し求愛をはじめ、春になるとつがいをつくって繁殖地に渡る。

特徴: ♂栗色の頭と目の周りに緑色の帯。♀頭と体はこげ茶色で波形の小さな模様。

マガン

L72cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖にはヒシクイに混じって数羽が飛来。「雁行」とはV字の隊列で群れになって飛ぶことで、冬の風物詩になっている。宮城県の「県の鳥」に指定されている。

特徴: 雌雄同色。クチバシの付け根は白く、腹に黒い横しまがある。若鳥にはない。

オオバン

L39cm



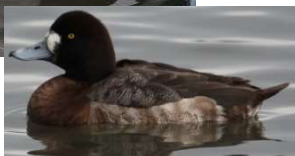
時期: 冬鳥

行動: 主に本州中部以北の湖沼で繁殖し、水上生活が多く、脚指の特異な水かきで泳ぐのに適している。草食性の強い雑食で、水草の根や葉、種子を食べ、昆虫類も食べる。

特徴: 雌雄同色。全体に黒く上面は青みがかり、クチバシと額が白い。

スズガモ

L45cm



時期: 冬鳥

行動: 港や海に近い湖沼で多く見られる。潜水して貝類などを食べる。飛行時の羽音が“スズ”の音に似ている。

特徴: ♂黒い頭で緑色の光沢、背が灰色、目が黄色。♀全体は褐色で顔前面が白い。

キンクロハジロ

L40cm



時期: 冬鳥

行動: 瓢湖には300羽ほど渡来する。潜水して水生植物、昆虫、貝類などの餌を採る。スズガモとよく似ているが、頭の後ろに冠羽があり、背中が黒い。

特徴: ♂黒い体に腹が白く黄色の目、長い冠羽。♀全体に黒褐色で腹が淡く、冠羽も短い。

ツルシギ

L30cm



時期: 旅鳥

行動: ハクチョウが帰った後の春先に100羽近い群れでやって来る。水田や湿地、干潟に生息し、昆虫類、甲殻類、貝類を食べる。

特徴: 雌雄同色。クチバシが長く、赤く長い足。夏羽は黒色で、目の縁は白、背は白い。

コスズガモ

L45cm



時期: 迷鳥

行動: 瓢湖では珍しい。迷鳥は本来の生息地域から迷って来たような鳥を言う。貝類、甲殻類などやや動物食の傾向の雑食。

特徴: ♂頭部に小さな冠羽と光沢、頬が膨らんでみえる。♀全体に黒茶色で顔前面に白斑。

バン

L32cm



時期: 留鳥

行動: 3月下旬に瓢湖に帰ってきて繁殖する。湿地や草のある浅瀬にすみ、泥湿地や水草の上を長い脚ゆびで歩く。外敵から田んぼを守る“バン”をしている鳥と言われている。

特徴: 雌雄同色。クチバシの先は黄色で、額板につながって赤い。

ヨシゴイ

L37cm

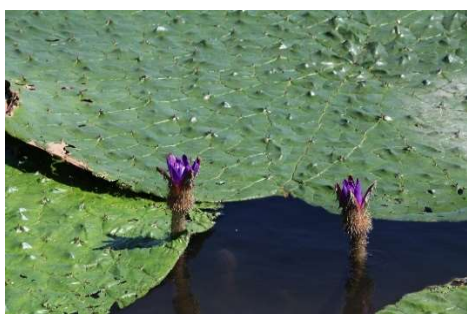


時期: 夏鳥

行動: 瓢湖には夏鳥として渡来。サギ科の中では最も小さい。首を伸ばして擬態のポーズをとる。ハスの茎に止まり、魚を狙う姿が見られる。魚、昆虫、甲殻類などを食べる。

特徴: 雌雄ほぼ同色。雄の頭はやや黒く、雌は赤褐色。体は黄褐色で縦斑があり目は黄色。

オニバス (スイレン科)



絶滅危惧Ⅱ類(VU)

花期: 8月～9月

特徴: スイレン科の一年草。6月上旬に水底の種子が発芽し、7月頃にトゲのある丸い葉を広げ、直径2m近くになる。8～9月に早朝より赤紫色の可憐な花を咲かせる。2～3日開花後に水中に沈み種子を作る。福島潟と共に県の天然記念物に昭和34年指定。